

## 柔道整復師専門学校生の「柔道」の意識について

松永 郁男\*・福 安喜\*\*・河村 将通\*\*\*・矢島 純一\*\*  
 坂元 敏朗\*\*\*\*・鎌塚 正志\*\*\*\*・田口 賢太郎\*\*\*\*・谷山 雄一\*\*\*\*  
 榎原 大樹\*\*\*\*・四本 貴也\*\*\*\*・三浦 尚之\*\*\*\*・井上 成秀\*\*\*\*  
 荒武 小詠美\*\*\*\*\*  
 (2008年10月30日 受理)

### Bone-Setting College Students' Knowledge of Judo

MATSUNAGA Ikuo・FUKU Yasuki・KAWAMURA Masamichi・YAJIMA Junichi  
 SAKAMOTO Toshiro・KAMATSUKA Tadashi・TAGUCHI Kentarou・TANIYAMA Yuichi  
 ENOKIHARA Daiki・YOTSUMOTO Takaya・MIURA Naoyuki・INOUE Narihide  
 ARATAKE Saemi

#### 要約

柔術の時代には活法（整復術を含む）は技術の上達と不可分の関係にあった。しかし、現在では柔道と関係の無い学生の入学も多く、柔道整復師の資格についての「柔道」の意識が薄れている。学生達は柔道整復師という資格をどのように捉え、考えているのか調査を行ったものである。

その結果、柔道をしている者もしていない者も「柔道」という意識の違いは見られず、それ程柔道に固執していないこと、学年の進行が進んでもその意識は深化しないこと、柔道の経験の深さ（部活と柔道授業の受講者）も関与していないことがわかった。

このことから多目的に入学している学生にどのように対応するかが専門学校の課題になると考えられる。

キーワード：柔道 柔道整復師 柔道経験

#### I 研究目的

柔道整復師とは一般には「ほねつぎ・整復師・接骨師」と呼称され、地域医療の中で親しまれ

---

\* 鹿児島大学教育学部 教授  
 \*\* 福接骨院  
 \*\*\* かわむら整骨院  
 \*\*\*\* 今村ライセンスアカデミー  
 \*\*\*\*\* 鹿児島大学大学院

ているが、医師や歯科医師・看護師・レントゲン技師・理学療法士などの他の医療職と比較しても必ずしも国民にしっかりと認識されているとは言えない。

その歴史的流れを概略すると<sup>3) 5)</sup>、柔道整復師法(昭和45年3月21日成立)が成立するまでは苦難の歴史があった。

殺傷を目的とした柔術時代は激しい稽古の中で骨・関節・筋・靭帯などに外力が加わって起こる組織損傷(具体的には骨折・脱臼・捻挫・挫傷・捻挫)に対して、整復・固定・後療法の施術を行い、人間が本来持っている自然治癒力を高める方法を経験的に発展させてきた。

それを裏付けるものとして、柔道の創始者嘉納治五郎が最初に学んだ「天神真楊流聞き書」の中で「天神真楊流の伝書は巻き物4巻あり、即ち、天之巻、地之巻、経絡陽之巻、経絡陰之巻という。初目録に対し地之巻を受け、同時に挫きの療法と薬法を伝授す。本目録に天之巻を与え、脱臼、骨折の整復法を伝授する。免許に陽之巻を受け、之に五臓の図を与え、全身急所一覧を添付する。皆伝には陰之巻に別紙免許を添えたものである。他の許物として四ヶ条の活法がある。形の初段を習得した時、誘いの活、中段を取得した時、襟活法、投げ捨てを終えて金活法、極意上段を終えて総活法を伝授する定めである・・・」と長谷五郎は述べている。<sup>5)</sup>

このように柔術の技術の上達に応じて活法を与えていたことが伺える。柔術の技術の上達と活法には切っても切れない関係にあったものと思われる。

明治時代以前は柔術の大家は殺傷を目的とした柔術の指導の傍ら、一方では「活法」の側面を整復という面を持って生計を立てていた。

時代が江戸から明治に入り、明治18年3月「入歯齒抜口中療治接骨取締方」により、接骨の禁止令が出された。それにより接骨と柔術の指導で生計を立てていた人は困り、国会に日本の伝統文化の消滅になるとの恐れがあることを訴えるとともに、柔道接骨術公認期成会を設置し、請願運動を続け、大正9年4月21日に公認発令された。<sup>5)</sup>このような努力があって、柔術家が安心して接骨の施術をし、そして柔術の修業に打ち込むことができるようになった。それがなければ柔術から柔道というように、今日の柔道に繋がるのに、大きな間断が生じたかも知れない。

このように柔道と不可分の関係にある柔道整復師も2000年以降、養成学校が急増したこともあり、入学前は柔道と無縁の学生も増えた。1998年の14校から、2008年には89校と急増し、毎年7000人以上が新規に養成される。<sup>1)</sup>

そのような歴史的流れの中で確立された柔道整復師という資格<sup>6)</sup>が現在の取得者に柔道という意識が希薄となり、学生の中では資格の名称そのものの変更を希望している者もあり、そうなれば内容の変更等も迫られる時が来るかもしれない。

そのようなことから、学生の柔道という意識はどのようなのか、その実態を探るために専門学校の学生にアンケートを実施して柔道経験の有無による意識の違いはないか、学年の進行とよって柔道の意識の違いはないか、柔道の部活経験者と授業で柔道受講の経験者及び未経験者の意識の違いの有無を調べるため、アンケートによる調査を実施した。

## II 方法

対象：柔道整復師養成専門学校：87名（男子74名、女子13名）

比較：○柔道経験者と未経験者との比較

柔道経験者 37名（男子32名、女子13名）、

柔道未経験者 50名（男子42名、女子8名）

○1年次と2年次3年次学生との柔道意識の比較

1年生 33名、2年生 26名、3年生 28名

○部活柔道経験者と柔道授業受講者による経験者と未経験者

部活柔道経験者 8名（男子7、女子1名）

柔道授業受講者による経験者（29（男子25、女子5）

柔道未経験者（男子42、女子8名）

## III 結果と考察

### 1、柔道経験の有無と各意識との関係

1) 「柔道以外のスポーツ経験はありますか」の問いに「表1」のような結果であった。柔道未経験者の方が他のスポーツを行っている者が多いが、両者の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意の差は見られなかった。

「表1」柔道以外のスポーツ経験がありますか

項目	はい	いいえ
経験者	33	4
未経験者	42	8
計	33	12

2) 柔道以外のスポーツ経験の程度は「表2」に見るように柔道経験者と未経験者共に部活が多く、他のスポーツ経験者の方が多かった。今回の調査した柔道整復師養成学校は他のスポーツをした人が多いことから、余り柔道という意識がなく入学していると思われる。柔道経験の有無の両者の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意の差は見られなかった。

「表2」「はい」と答えた人に聞きます

項目	授業で行う	部活で行う	その他
経験者	2	24	7
未経験者	1	37	4
計	3	61	11

### 3) 柔道整復師養成専門学校に進学した動機について

「表3」に見るように、「以前怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがあったので」が29.5%で最も多く、次いで「医療系の学校に興味があったので」が22.6%であった。柔道の

経験の有無に関わらず多かった。

「表3」柔道整復師専門学校に進学した動機

※項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
経験者	5	5	18	4	0	15	4	2	5	5	2	5
未経験者	0	3	21	10	1	19	5	3	3	6	1	9
計	5	8	39	14	1	34	9	5	8	11	3	14

- ※1 柔道していたので  
 3 怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがある  
 5 親が柔道整復師で後を継ぐため  
 7 先輩友人に勧められ  
 9 役に立ちそうだから  
 11 病院や整骨院に付き添いとして見るのがあって
- 2 恩師が柔道整復師だったので  
 4 柔道はしていないが、自分で開業したかった  
 6 医療系の学校に興味があった  
 8 先生に勧められ  
 10 親や親族に勧められて  
 12 その他

柔道経験者と未経験者との回答が異なるのは柔道経験者が「柔道をしていたので進学した」に5人の回答あるのに対して、未経験者は「柔道と関わりなく自分で開業できるのでは」に10人の回答あった。柔道経験の有無についての関与があるかについて検定は回答のゼロ項目があったので行わなかった。

4) 柔道整復師養成専門学校は柔道の授業をもっとすべきである。

「表4」柔道整復師専門学校では柔道の授業をもっとすべきである

項目	はい	いいえ
経験者	14	13
未経験者	22	36
計	36	49

「表4」に見るように、柔道経験者は肯定と否定が半数に対して未経験者は「すべきでない」との回答が62%あり、否定が多かった。両者の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意な差は見られなかった。

5) 柔道整復師という資格の名称について

「表5」「柔道整復師」という資格の名称にどう思いますか

※項目	1	2	3	4	5
経験者	11	1	18	3	2
未経験者	8	2	21	18	0
計	19	3	39	21	2

- ※1 良いイメージである 2 悪いイメージである 3 どうも思わない 4 名称を変更すべき 5 その他

「表5」に見るように、最も多いのが「どうにも思わない」で46.5%、次いで「名称を変更すべきである」が25%であった。「柔道という名称がつくのは良いイメージである」は22.4%であった。名称を代えるべきとの回答は25%であった。

6) 柔道を創始した嘉納治五郎を知っているか？

「表6」柔道の創始者嘉納治五郎を知っていますか

※項目	1	2	3	4
経験者	3	15	11	7
未経験者	1	11	23	15
計	4	26	34	22

※1 よく知っている 2 なんとなく知っている 3 名前を知っている程度 4 知らない

「表6」に見るように、「良く知っている」人は4.7%と少なく、「なんとなく」が30.3%、「名前を知っているくらい」が39.6%であった。知らない人もいた。経験者の有無で回答項目に $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差は見られなかった。

7) 卒業後の進路の希望について

「表7」卒業後の進路希望について

※項目	1	2	3	4	5	6	7
経験者	7	20	5	1	1	0	2
未経験者	7	27	7	1	3	1	3
計	14	47	12	2	4	1	5

※1 開業 2 接骨院勤務 3 病院・診療所 4 研修施設 5 進学 6 介護施設 7 その他

「表7」に見るように、接骨院勤務が55.2%で最も多く、次いで開業が16.5%であった。やはり、卒業後は取得した資格を生かしたい気持ちの人が半数以上であった。

8) 現在の仕事は何をしていますか

「表8」現在の仕事は何をしていますか

※項目	1	2	3
経験者	9	1	15
未経験者	21	1	23
計	30	2	38

※1 接骨院でアルバイト 2 整形外科 3 その他

「表8」に見るように、「その他」が54.3%で多く、色々な職種の仕事をしている。次いで接骨院勤務が多く42.9%であった。

9) 卒業後の研修について

「表9」卒業後の研修について

※項目	1	2	3	4
経験者	3	1	7	26
未経験者	10	1	5	34
計	13	2	12	60

※1 現在の接骨院で続ける 2 現在の整形外科で続ける 3 その他 4 研修先は未定

「表9」に見るように、「まだ決めていない」回答が68%最も多く、柔道経験の有無と関係について $\chi^2$ 検定を行ったが有意の差は見られなかった。

10) 今後、学習してみたい治療分野について

「表10」に見るように、「スポーツ領域の医学・治療」の領域が48.8%で最も多く、次いで「予防医学領域（健康増進を含む）」が18.3%あった。このことから、将来柔道整復師になるという意識より、スポーツ医学、予防医学に興味を持っており、旧来の柔道整復師という意識がほとんど見られなかった。

「表10」 今後学びたい治療分野

項目※	1	2	3	4	5	6
経験者	21	3	3	5	3	2
未経験者	19	12	7	4	2	1
計	40	15	10	9	5	3

※ 1 スポーツ領域の医学・治療 2 予防医学領域 3 高齢者・介護保険領域  
4 整形外科領域の治療 5 リハビリテーション 6 その他

11) 卒業後教育として講座を開講したら受講しますか

「表11」 卒業後教育として独立開業に向けた講義あったら受講しますか

項目	はい	いいえ
経験者	43	3
未経験者	33	5
計	76	8

「表11」に見るように、受講する人が90.5%と多く、柔道の経験の有無に関係なく、卒業後も学習する意欲が高いことがうかがえた。

12) 将来のことで悩みはありますか

「表12」 就職や将来のことで悩んでいるか

項目	はい	いいえ
経験者	16	18
未経験者	17	32
計	33	50

「表12」に見るように、「はい」が39.4%、「いいえ」が60.3%であった。経験者の方が悩みを47.1%、柔道経験の無い方が34.7%で経験者の方が多いが、 $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差は見られなかった。

13) 学校を辞めたいと思ったことがあるか否か

「表13」 学校を辞めたいと思ったことがある

項目	はい	いいえ
経験者	13	24
未経験者	17	30
計	30	54

「表13」に見るように、「はい」と答えた人は全体で35.8%、「いいえ」が64.3%であった。柔道経験の有無で「はい」をみると、経験者で35.2%、未経験者は36.2%で柔道経験の有無に関係のないことがわかった。

14) 学校を辞めたいと思った理由

「表 14」 学校を辞めたいと思ったこと。はいの回答の理由

※項目	1	2	3	4	5	6
経験者	16	14	2	9	13	1
未経験者	25	21	2	11	15	3
計	41	35	4	20	28	4

※ 1 授業についていけない 2 授業がつまらない 3 思っていた学校生活と違っていた  
4 資格に興味がなくなった 5 勉強が苦痛 6 その他

「表 14」に見るように、授業についていけないが31.1%で多く、ついで授業がつまらないが26.6%、ついで勉強が苦痛が21.3%で受講生の学力不足が考えられる。思った以上に難しいことがわかり、資格の取得に興味がなくなるという回答が見られたものとする。

15) 整復師の資格の他に、別に医療資格の取得を考えているか

「表 15」 整復師の資格取得後に他の医療資格の取得を考えているか

項目	考えている	考えていない
経験者	13	24
未経験者	17	30
計	30	54

「表 15」に見るように、「柔道整復師の資格で十分である」回答が64.3%で多く、他にも取得したい人が35.8%であった。他の資格を取得したいものは経験者は35.2%、未経験者は46.8%で未経験者の方が他の資格を取得しようと割り合いが覆い傾向があるが、 $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差はなかった。

16) 柔道整復師の免許を取得したい理由

「表 16」 柔道整復師の免許を取得したい理由について

※項目	1	2	3	4	5	6
経験者	16	14	2	9	13	1
未経験者	25	21	2	11	15	3
計	41	35	4	20	28	4

※ 1 開業したいので 2 保険がつかえるので 3 医療資格でなんとなく  
4 スポーツトレーナーになりたい 5 地域医療に貢献したい 6 その他

「表 16」に見るように、「開業したい」が31.1%で最も多く、次いで「保険が使えるので」が26.6%、地域医療に貢献が21.3%、スポーツトレーナーになりたいが15.2%であった。やはり、柔道整復師の魅力は開業できること、保険がつかえることに魅力を感じていることが考えられる。

## 2、1・2・3学年と各意識との関係

1) 柔道以外のスポーツ経験はありますか?の問いに「表 17」のような結果であった。柔道未経験者の方が他のスポーツを行っている者が多いが、両者の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意の差は見られなかった。ただ、1年生は94%、2年生は88.5%、3年生は85.8%で若い学年の方が柔道以外のスポーツ経験が多い傾向がみられた。

「表17」柔道以外のスポーツ経験がありますか

項目	はい	いいえ
1年性	31	2
2年性	23	3
3年性	24	4
計	58	9

2) 柔道以外のスポーツ経験の程度は「表18」に見るように柔道経験者と未経験者共に部活での経験が多く1年生が80%、2年生が81.9%、3年生が82.6%であった。

この柔道整復師養成学校は他のスポーツをした人が多いことから、余り柔道という意識がなく入学していると思われる。学年間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意の差は見られなかった。

「表18」「はい」と答えた人に聞きます

項目	授業で行う	部活で行う	その他
1年性	2	24	4
2年性	0	18	4
3年性	1	19	3
計	3	61	11

3) 柔道整復師養成専門学校に進学した動機について

「表19」柔道整復師専門学校に進学した動機

※項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年性	0	1	18	2	0	12	5	3	4	5	1	6
2年性	2	2	12	6	1	19	2	0	1	1	1	4
3年性	3	5	9	6	0	13	2	2	3	5	1	4
計	5	8	39	14	1	34	9	5	8	11	3	14

※1 柔道していたので 2 恩師が柔道整復師だったので

3 怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがある 4 柔道はしていないが、自分で開業したかった

5 親が柔道整復師で後を継ぐため 6 医療系の学校に興味があった 7 先輩友人に勧められ

8 先生に勧められ 9 役に立ちそうだから 10 親や親族に勧められて

11 病院や整骨院に付き添いとして見るのがあって 12 その他

「表19」に見るように、最も回答の多い項目は「以前怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがあったので」が25.9%で多く、次いで「医療系の学校に興味があったので」が22.6%で多かった。学年別の違いは1年生は怪我をして柔道生復師の治療を受けたことがあるが31.6%で最も多いのに比べて、2・3年生は医療系の学校に興味があったが最も多く、2年生は特に46.4%、3年生は24.6%であった。学年別の違いの有無についての検定は回答のゼロ項目があったので行わなかった。

4) 柔道整復師養成専門学校は柔道の授業をもっとすべきである

「表20」に見るように、1年生は40.7%、2年生は34.7%、3年生は18.6%で学年が進むにつれて否定的な回答が多く成る傾向がみられたが、学年の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意な差は見られなかった。

「表20」柔道整復師専門学校では柔道の授業をもっとすべきである



項目	はい	いいえ
1年性	13	19
2年性	9	17
3年性	5	22
計	27	58

## 5) 柔道整復師という資格の名称について

「表 21」 「柔道整復師」 という資格の名称にどう思いますか

※項目	1	2	3	4	5
1年性	9	0	20	4	0
2年性	2	1	9	8	2
3年性	7	2	10	9	0
計	18	3	39	21	2

※ 1 良いイメージである 2 悪いイメージである 3 どうも思わない 4 名称を変更すべき 5 その他

「表 21」に見るように、最も多いのが「どうも思わない」が47%で最も多く、次いで「名称を変更すべきである」が25.3%「柔道という名称がつくのは良いイメージである」が21.7%であった。どの学年でも「どうも思わない」が多いが、1年生は60.6%、2年生40.9%、3年生35.8%で学年進行とともに回答が少ない。学年別では良いイメージは1年生が27.3%で、3年生が25%、2年生が9%であった。1年生は良いイメージで入り、2年生は資格取得の現実的な苦しさを感じ、3年生は資格取得が近づき、その資格に誇りを感じているのでは無いかと推察される。

## 6) 柔道を創始した嘉納治五郎を知っているか？

「表 22」 柔道の創始者嘉納治五郎を知っていますか

※項目	1	2	3	4
1年性	2	9	13	9
2年性	1	5	10	9
3年性	1	12	11	4
計	4	26	34	22

※ 1 よく知っている 2 なんとなく知っている 3 名前を知っている程度 4 知らない

「表 22」に見るように、「名前を知っている」くらいが39.6%で最も多く、次いで「なんとなく」が30.3%、「良く知っている」人は4.7%と少なく、知らない人も25.6%もいた。学年間の意識の違いを回答項目に $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差は見られなかった。

## 7) 卒業後の進路の希望について

「表 23」に見るように、接骨院勤務が55.3%で最も多く、次いで開業が16.5%が多かった。学年間違い意識の違いを回答項目に $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差は見られなかった。

「表 23」卒業後の進路希望について

※項目	1	2	3	4	5	6	7
1 年性	6	19	5	0	1	1	1
2 年性	1	19	2	0	1	0	2
3 年性	7	9	5	2	2	0	2
計	14	47	12	2	4	1	5

※ 1 開業 2 接骨院勤務 3 病院・診療所 4 研修施設 5 進学 6 介護施設 7 その他

## 8) 現在の仕事は何をしていますか

「表 24」現在の仕事は何をしていますか

※項目	1	2	3
1 年性	11	1	15
2 年性	15	0	10
3 年性	5	1	15
計	31	2	40

※ 1 接骨院でアルバイト 2 整形外科 3 その他

「表 24」に見るように、「その他」が 54.8% で最も多く、色々な職種の仕事をしていることがうかがえる。次いで接骨院勤務が多く、42.5% であった。

## 9) 卒業後の研修について

「表 25」卒業後の研修について

※項目	1	2	3	4
1 年性	6	1	4	22
2 年性	5	1	3	17
3 年性	2	0	5	21
計	13	2	12	60

※ 1 現在の接骨院で続ける 2 現在の整形外科で続ける 3 その他 4 研修先は未定

「表 25」に見るように、「まだ決めていない」回答が 69% で最も多く、次いで現在の接骨院で続けるが 15% であった。学年間との関係について  $\chi^2$  検定を行ったが有意の差は見られなかった。

## 10) 今後、学習してみたい治療分野について

「表 26」今後、学びたい治療分野

※項目	1	2	3	4	5	6
1 年性	15	4	4	3	6	1
2 年性	14	4	3	3	0	0
3 年性	11	7	3	3	0	2
計	40	15	10	9	6	3

※ 1 スポーツ領域の医学・治療 2 予防医学領域 3 高齢者・介護保険領 4 整形外科領域の治療 5 リハビリテーション 6 その他

「表 26」に見るように、今後学びたい分野として「スポーツ領域の医学・治療」の領域が 48.2% で最も多く、次いで「予防医学領域（健康増進を含む）」が 16.2% であった。このこ

とから、将来柔道整復師になるという意識より、スポーツ医学、予防医学に興味を持っており、旧来の柔道整復師という意識がほとんど見られなかった。学年間の傾向も似ている傾向を示した。

#### 11) 卒業後教育として講座を開講したら受講しますか

「表 27」卒業後教育として独立開業に向けた講義あったら受講しますか

項目	はい	いいえ
1 年性	29	4
2 年性	22	2
3 年性	25	2
計	76	8

「表 27」に見るように、受講する人が 90.5% で多く、卒業後も学習する意欲が高いことがうかがえた。学年間の 1 年生が 87.9%、2 年生が 91.2%、3 年生が 92.6% で学年進行とともに受講を希望する割合が少しずつ上がる傾向がみられた。

#### 12) 将来のことで悩みはありますか

「表 28」就職や将来のことで悩んでいるか

項目	はい	いいえ
1 年性	8	23
2 年性	11	13
3 年性	14	14
計	33	50

「表 28」に見るように、「はい」と答えたものが 39.8%、「いいえ」と答えたものが 60.3% であった。学年間も同様な傾向を示し、有意な差は見られなかった。

#### 13) 学校を辞めたいと思ったことがあるか否か

「表 29」学校を辞めたいと思ったことがある

項目	はい	いいえ
1 年性	3	30
2 年性	5	21
3 年性	12	15
計	20	66

「表 29」に見るように、「はい」と答えた人は 23.3% で、思った理由に「思っていた学校生活と違って」という項目が 28.6% で最も多く、次いで「資格に興味がなくなった」が 19.1% であった。ただ、1 年生にはその回答はみられず、学年進行とともに回答が増えるのではないかと考えられる。

#### 14) 学校を辞めたいと思った理由

「表 30」に見るように、「思っていた学校生活と違って」が 28.6% でおおく、次いで「資格に興味がなくなった」が 19.1% であった。思っていた学校生活がどのようなイメージを持っていたのか、資格に興味を失った理由が学力なのかその他の理由か今後の調査の必要性を

感じた。

「表30」学校を辞めたいと思ったこと。はいの回答の理由

※項目	1	2	3	4	5	6
1年性	1	0	0	0	1	1
2年性	0	0	3	1	0	2
3年性	2	1	3	3	2	1
計	3	1	6	4	3	4

15) 整復師の資格の他に、別に医療資格の取得を考えているか

「表31」整復師の資格取得後に他の医療資格の取得を考えているか

項目	考えている	考えていない
1年性	15	18
2年性	5	20
3年性	10	16
計	30	54

「表31」に見るように、「柔道整復師の資格で十分である」回答が64.3%で多く、他にも取得したい人が35.8%いた。どの学年も他の資格の取得を考えない人が半数を超え、学年間に有意の差は見られなかった。

16) 柔道整復師の免許を取得したい理由

「表32」柔道整復師の免許を取得したい理由について

※項目	1	2	3	4	5	6
1年性	12	13	1	7	12	2
2年性	12	10	1	6	9	1
3年性	17	12	2	7	7	1
計	41	35	4	20	28	4

※1 開業したいので 2 保険がつかえるので 3 医療資格でなんとなく

4 スポーツトレーナーになりたくて 5 地域医療に貢献したい 6 その他

「表32」に見るように、「開業したい」が31.1%で最も多く、次いで「保険が使えるので」が26.6%が多かった。学年間に有意な差はみられなかった。

### 3、活経験者と授業受講者および柔道未経験者の各意識との関係

柔道部に籍を置き活動したものを部活経験者とし、中学校や高等学校での正課体育での経験者を授業経験者とし、柔道を全く経験していないものを未経験者とした。そして、その三者に意識の違いは無いかについて、項目毎に $\chi^2$ 検定を行った。

1) 柔道以外のスポーツ経験はありますか？

「表33」柔道以外のスポーツ経験はありますか

項目	はい	いいえ
経験者	6	2
授業経験者	27	2
未経験者	45	5
計	78	9

「表 33」のように他のスポーツの経験が 89.7%であった。いずれにしても入学者の中はスポーツ経験者が多いということがわかった。柔道未経験者の方が他のスポーツを行っている者が多いが、両者の間に  $\chi^2$  検定を行ったが、有意の差は見られなかった。

2) 柔道以外のスポーツ経験

「表 34」 「はい」と答えた人に聞きます

項目	授業で行う	部活で行う	その他
経験者	0	3	3
授業経験者	2	21	4
未経験者	1	37	4
計	3	61	11

「表 34」に見るように柔道経験者と未経験者共に部活経験者 81.4%で多く、未経験者も部活のスポーツ経験者の 88.1%と多かった。柔道整復師養成学校は他のスポーツをした者が多い傾向にあることがわかった。三者の間に  $\chi^2$  検定を行ったが、有意の差は見られなかった。

3) 柔道整復師養成専門学校に進学した動機について

「表 35」 柔道整復師専門学校に進学した動機

※項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
経験者	5	3	3	0	0	6	1	0	1	0	1	2
授業経験者	0	2	15	4	0	9	3	2	4	5	1	3
未経験者	0	3	21	10	1	19	5	3	3	6	1	9
計	5	8	39	14	1	34	9	5	8	11	3	14

※ 1 柔道していたので 2 恩師が柔道整復師だったので

3 怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがある 4 柔道はしていないが、自分で開業したかった

5 親が柔道整復師で後を継ぐため 6 医療系の学校に興味があった 7 先輩友人に勧められ

8 先生に勧められ 9 役に立ちそうだから 10 親や親族に勧められて

11 病院や整骨院に付き添いとして見るのがあって 12 その他

「表 35」に見るように、最も回答の多い項目は「以前怪我をして柔道整復師の治療を受けたことがあったので」が 25.9%で多く、次いで「医療系の学校に興味があったので」が 22.6%で多かった。この項目は三者とも柔道の経験の有無に関わらず多かった。

柔道経験者と未経験者との回答が異なるのは柔道経験者が「柔道をしていたので進学した」と回答するのと反対に未経験者は「柔道と関わりなく自分で開業できるのでは」との項目に大きな違いが見られた。経験の有無についての検定は回答のゼロ項目があったので行わなかった。

4) 柔道整復師養成専門学校は柔道の授業をもっとすべきである

「表 36」 柔道整復師専門学校では柔道の授業をもっとすべきである

項目	はい	いいえ
経験者	5	2
授業経験者	9	20
未経験者	13	36
計	27	58

「表36」に見るように、柔道経験者は肯定するものが71.5%であるのに対して、と授業経験者は31.6%、未経験者は26.6%と減って、逆に「すべきでない」との回答が授業経験者は69%、未経験者は73.5%と多くなった。ただ、この三者の間に $\chi^2$ 検定を行ったが、有意な差は見られなかった。

#### 5) 柔道整復師という資格の名称について

「表37」 「柔道整復師」という資格の名称にどう思いますか

※項目	1	2	3	4	5
経験者	6	0	1	0	0
授業経験者	5	1	17	3	2
未経験者	8	2	21	18	0
計	19	3	39	21	2

※1 良いイメージである 2 悪いイメージである 3 どうも思わない 4 名称を変更すべき 5 その他

「表37」に見るように、最も多いのが「どうも思わない」が46.5%で最も多く、次いで「名称を変更すべきである」が25%、「柔道という名称がつくのは良いイメージである」が22.7%であった。部活経験者は85%が「柔道という名称がつくのは良いイメージである」と回答があるが、授業経験者は17.9%、未経験者は16.4%と良いイメージを持つものが少ない。

#### 6) 柔道を創始した嘉納治五郎を知っているか?

「表38」 柔道の創始者嘉納治五郎を知っていますか

※項目	1	2	3	4
経験者	1	5	1	0
授業経験者	2	10	10	7
未経験者	1	15	23	15
計	4	26	34	22

※1 よく知っている 2 なんとなく知っている 3 名前を知っている程度 4 知らない

「表38」に見るように、「良く知っている」人は4.7%と少なく、「なんとなく」が30.3%、「名前を知っている」が39.6%で多く、知らない人も25.6%もいた。

#### 7) 卒業後の進路の希望について

「表39」 卒業後の進路希望について

※項目	1	2	3	4	5	6	7
経験者	2	3	2	0	0	0	0
授業経験者	5	17	3	1	1	0	2
未経験者	7	27	7	1	3	1	3
計	14	47	12	2	4	1	5

※1 開業 2 接骨院勤務 3 病院・診療所 4 研修施設 5 進学 6 介護施設 7 その他

「表39」に見るように、接骨院勤務が55.3%で最も多く、次いで開業が16.5%で、その次が病院・診療所が14.2%が多かった。

8) 現在の仕事は何をしていますか

「表 40」現在の仕事は何をしていますか

※項目	1	2	3
経験者	2	0	2
授業経験者	7	1	13
未経験者	21	1	23
計	30	2	38

※ 1 接骨院でアルバイト 2 整形外科 3 その他

「表 40」に見るように、「その他」が 54.3%と多く、色々な職種の仕事をしている。次いで接骨院勤務が 42.9%で、整形外科が 2.9%であった。

9) 卒業後の研修について

「表 41」卒業後の研修について

※項目	1	2	3	4
経験者	0	0	1	7
授業経験者	3	1	6	19
未経験者	10	1	5	34
計	13	2	12	60

※ 1 現在の接骨院で続ける 2 現在の整形外科で続ける 3 その他 4 研修先は未定

「表 41」に見るように、「まだ決めていない」回答が 69%で最も多く、次いで現在の接骨院で続けるが 15%、その他が 13.8%であった。柔道経験者が接骨院で続けるがゼロに対して、授業経験者は 10.4%、未経験者は 20%であった。研修についても柔道経験の有無が関係していないことが考えられた。

10) 今後、学習してみたい治療分野について

「表 42」今後学びたい治療分野

※項目	1	2	3	4	5	6
経験者	6	0	0	1	1	0
授業経験者	15	3	3	4	2	2
未経験者	19	12	7	4	2	1
計	40	15	10	9	5	3

※ 1 スポーツ領域の医学・治療 2 予防医学領域 3 高齢者・介護保険領域 4 整形外科領域の治療  
5 リハビリテーション 6 その他

「表 42」に見るように、「スポーツ領域の医学・治療」の領域が 48.8%で最も多く、次いで「予防医学領域（健康増進を含む）」が 18.3%で多かった。このことから、将来柔道整復師になるという意識より、スポーツ医学、予防医学に興味を持っており、旧来の柔道整復師という意識がほとんど見られなかった。

11) 卒業後教育として講座を開講したら受講しますか

「表 43」に見るように、受講する人が 90.5%と多く、卒業後も学習する意欲が高いことがうかがえた。

「表43」卒業後教育として独立開業に向けた講義あったら受講しますか

項目	はい	いいえ
経験者	7	0
授業経験者	26	3
未経験者	43	5
計	76	8

12) 将来のことで悩みはありますか

「表44」就職や将来のことで悩んでいるか

項目	はい	いいえ
経験者	5	1
授業経験者	11	17
未経験者	17	32
計	33	50

「表44」に見るように、「はい」と回答したものが39.8%、「いいえ」と回答したものが60.3%で、就職や将来のことで悩んでいるものが多かった。柔道経験者の方が83.4%と悩みが多く、授業は経験者は39.3%、未経験者は34.7%で違いが見られたが、この三者の間の意識違いについて、 $\chi^2$ 検定を行ったが有意な差は見られなかった。

13) 学校を辞めたいと思ったことがあるか否か

「表45」学校を辞めたいと思ったことがある

項目	はい	いいえ
経験者	1	7
授業経験者	6	22
未経験者	13	37
計	20	66

「表45」に見るように、「はい」と答えた人は23.3%で、「いいえ」と答えた人は76.8%で辞めたいと思ったことのない人の方が多かった。

14) 学校を辞めたいと思った理由

「表46」学校を辞めたいと思ったこと。はいの回答の理由

※項目	1	2	3	4	5	6
経験者	1	0	1	1	0	0
授業経験者	0	0	2	1	1	1
未経験者	2	1	3	2	2	3
計	3	1	6	4	3	4

※ 1 授業についていけない 2 授業がつまらない 3 思っていた学校生活と違っていた

4 資格に興味なくなった 5 勉強が苦痛

「表46」に見るように、思った理由に「思っていた学校生活と違っていた」という項目が28.6%で最も多く、次いで「資格に興味なくなった」で19.1%であった。授業について行けない等の理由は少なく、学力の関与は無いことが少ないことがわかった。

15) 整復師の資格の他に、別に医療資格の取得を考えているか



「表 47」 整復師の資格取得後に他の医療資格の取得を考えているか

項目	考えている	考えていない
経験者	3	5
授業経験者	10	19
未経験者	17	30
計	30	54

「表 47」に見るように、「柔道整復師の資格で十分である」回答が 64.3%で多く、他にも取得したい人が 135.8%であった。この三者の間も、かんがえているが 35%前後、考えていないは 63%前後とほぼ似ている傾向をしめした。それ故、三者には有意の差は見られなかった。

#### 16) 柔道整復師の免許を取得したい理由

「表 48」 柔道整復師の免許を取得したい理由について

※項目	1	2	3	4	5	6
経験者	5	2	0	0	3	10
授業経験者	11	12	2	9	10	1
未経験者	25	21	2	11	15	3
計	41	35	4	20	28	14

※ 1 開業したいので 2 保険がつかえるので 3 医療資格でなんとなく

4 スポーツトレーナーになりたくて 5 地域医療に貢献したい 6 その他

「表 48」に見るように、「開業したい」が 28.9%で最も多く、次いで「保険が使えるので」が 24.7%で多かった。資格については開業と保険は使えることに魅力を感じているようである。

## IV、総括

- 1、柔道整復師になる上の柔道に対する意識は極めて低いことがわかった。
- 2、柔道経験に基づき柔道整復師を目指す傾向は見られなかった。
- 3、柔道経験も他のスポーツの経験者も意識の違いは見られなかった。
- 4、柔道整復師の資格には開業ができることと保険が適用されることに魅力を感じていると考えられた。
- 5、低学年、高学年と学年間の意識の違いは見られなかった。
- 6、柔道経験の差が柔道整復師を目指す意識に大きな関与はみられなかった。
- 7、柔道整復師の資格取得のみで無く、学生は多目的に入学していることが考えられた。

## V、引用・参考文献

- 1) 福 安喜他 11 名 柔道整復師の教育現場について 第 13 回板橋区医師会医学会プログラム・演題抄録集 P59 2008
- 2) 東 博彦編 新版整形外科学・外傷学 文光堂 2006
- 3) 杉岡洋一監修 日本における整形外科の歴史 南山堂 1989
- 4) 社団法人日本柔道整復師会 柔整マニュアル活法について 1987

- 5) 鳥居良夫 日整60年史 日本整復師会 1978
- 6) 高島禮子 細田峰範 西村義人 日本接骨術の源流 第13回板橋区医師会医学会プログラム・演題抄録集 P58 2008